

鎌倉時代

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

おご
 驕る平家は久しからず 院政期に我が世の春をうたった平家でしたが、やがて平家打倒を願い、関東で力を蓄えていた源頼朝一党により攻め滅ぼされます。

頼朝は武士を中心とした政治を始めるため、鎌倉に幕府を開きます。鎌倉には政所を置き、京都には、かつて平家の居住地であった六波羅ろくはら たんだいに探題を置いて治安・警備にあたらせました。

京内・京外の遺跡 平安京は現在に至るまで都市として機能し続けていることから、各時代の遺構が入りまじってみつかります。そのため鎌倉時代のみを調査することはあまりありません。

鎌倉時代の遺構の密集した数少ない例のひとつに、京都駅周辺(平安京左京八条三坊)があります。

京都駅周辺は、これまでに数多くの発掘調査が行なわれている所です。駅舎の建て替えや塩小路通沿いのビルの建築にともなう調査




鎌倉時代の室町小路とビルの谷間に現在の室町通(南から)

では、鏡・刀の部品・仏具・私鑄いがるつぽ銭などの鑄型や埴塼が大量に出土しています。さらに、鑄物を造っていた作業場と考えられる遺構も

みつかっています。

このほか、七条通沿いの調査や新町通沿いの調査など数箇所でも鑄型・埴塼が出土しました。

略年表

平安時代後期				鎌倉時代									室町時代		
1185	1192	1199	1202	1221	1232	1236	1238	1271	1274	1281	1291	1313	1324	1333	1334
壇ノ浦で平家が敗れる	源頼朝が鎌倉に幕府を開く	源頼朝没する	建仁寺建立 方丈記・平家物語・新古今和歌集	承久の変	関東御成敗式目を制定	小倉百人一首	鎌倉に大仏を建立 東福寺建立	フビライ・ハーン元帝国を興す	文永の役	弘安の役	このころが久我東町集落跡の最盛期 南禅寺建立	八条院町が東寺領になる	正中の変	徒然草 鎌倉幕府滅亡	建武新政
				 栢杜方形堂				 七条町出土 龍泉窯青磁碗							

八条三坊内には、七条町と八条院町がありました。七条町は七条大路に沿って開け、多くの商人・職人が住んでいました。酒屋や金貸しも多かったといわれています。また、八条院町は、八条三坊の南東部の4町以上を占めていた八条院^{あきこ}暲子内親王(鳥羽天皇皇女)の邸宅の跡地に造られました。いろいろな職人や商人が住んでいたことが『東寺^{とうじ}百合文書』によってわかります。

平安京の周辺部には、鎌倉時代の遺跡がいくつかあります。

伏見区醍醐^{かやのもり}の栢杜遺跡では、平安時代後期に建立された八角円堂と、東大寺大仏殿の再建を指揮した重源^{ちゆうげん}の手になる鎌倉時代^{ほうぎやう}の方形^{どう}堂がみつかっています。ここからは斗^{ます}・肘木^{ひじき}や壁材などの建築部材がたくさん出土しました。

同じく伏見区^{こが}の久我東町^{あずまちやう}遺跡は、大きな主要となる建物と、それに付属する建物数棟が、幅の広い濠^{ほり}に囲まれています。戦乱に備えた環濠集落のひとつと考えられます。鎌倉時代の後半代が最盛期で、14世紀の中頃に廃絶します。



久我東町遺跡の建物と西側の濠(北から)

また、探題の置かれていた六波羅の地域では今までに何度も調査が実施されていますが、現状では「六波羅探題」に関するはっきりした遺跡はみつかりません。

民衆の時代 これまで特権階級が独占していた感のある宗教や芸術などを、あらゆる階層の人々が共有することになります。この時代に、謡^{うた}や踊^{おどり}の民衆^{はぐく}芸能が育まれやがて能に発展していきます。

新しい考え方の仏教が生まれ、法然^{ほうねん}、親鸞^{しんらん}、日蓮^{にちれん}、一遍^{いつぺん}などのわかりやすい「おしえ」は、人々に広く染み透っていきます。また栄西^{えいせい}や道元^{どうげん}によって禅宗が広まり、建仁寺、東福寺、南禅寺などの寺院が建立されます。

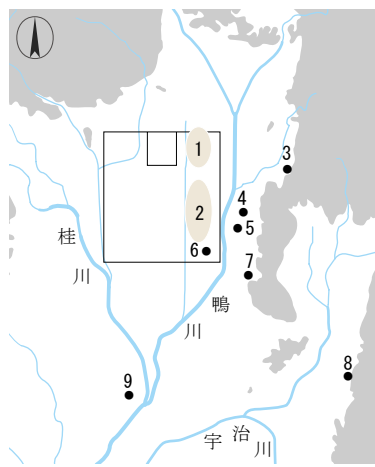
東福寺は鎌倉時代の終わり頃に火災・戦災で総ての建物を失っており、現在の三門は室町時代に建てられたものです。解体修理の際に行なわれた発掘調査で創建時と同じ位置に三門が再建されたことがわかりました。また、その後の調査で、創建時の鐘楼^{しょうろう}・経蔵^{きやうぞう}および回廊などをみつめています。

町の変化 左京に人々が集中す

るようになると、道路の上にも民家が建ち並ぶなど、しだいに条坊制は崩れていきます。

そして、京都の町は室町通を南北の軸として徐々に四条通と六条通の間の「下の町」と二条通以北の「上の町」との大きなまとまりに集約され、商工業の中心地としてさらに発展をとげていきます。

一方、二度にわたる元寇で大きな経済的負担をかかえた鎌倉幕府は、さらに何度も発生した災害などのためその威信を急激に失い、しだいに人々の心が幕府から離れていきます。こうした背景のもとに後醍醐天皇が天皇制の復権^{はつか}を謀ります。再び戦乱が起こり、正慶二年(1333)、鎌倉幕府はここに幕を閉じます。(鈴木 廣司)



遺跡位置図 1上の町 2下の町 3南禅寺 4建仁寺 5六波羅 6七条町・八条院町 7東福寺 8栢杜遺跡 9久我東町遺跡



左京八条三坊三町で出土した鏡の鑄型